

「六甲山の災害展」を開催しました！

兵庫県神戸県民センター六甲治山事務所・農林水産部治山課

1 はじめに

神戸・阪神地域に豊かな緑と潤いを与える六甲山は、急峻な地形や崩れやすい地質のため、昭和13年の阪神大水害、昭和36年及び昭和42年の豪雨による大規模な土砂災害により、神戸市街地等は甚大な被害を受けてきました。災害が繰り返される六甲山は、かつては「はげ山」で、明治以降、崩壊地への植林や治山ダム等の整備に取り組んだ結果、現在の豊かな森となりました。



災害展会場

これらの歴史を忘れることなく、県民一人一人の山地災害に関する知識や防災意識の向上を目的に、8月16日から28日までの間、神戸市の「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」にて「六甲山の災害展2022」を開催しました。

2 六甲山で起きた災害の歴史

明治時代に裸地化していた六甲山が治山事業等により植林を進めた結果、豊かな緑を取り戻すことができた歴史や、



災害と復興の取組を紹介

「昭和13年阪神大水害」、「昭和42年豪雨災害」、「阪神淡路大震災」の貴重な記録と復興への取組を映像やパネルで紹介しました。

また、六甲山に約2,200基整備されている治山ダム、砂防ダムの位置を示した六甲山系立体模型を展示し、六甲山で取り組んできた防災工事の整備状況も紹介しました。

3 実験装置を使った防災の普及啓発

土石流の発生を再現し、土砂災害の被害状況や治山ダムの効果を体感できる「土石流模型実験装置」、花崗岩と森林土壌の保水力を比較する「保水力実験」、降雨体験装置「かっぱくん」の実



土石流実験装置の実演

演を行いました。また、県砂防課による「地すべり模型実験装置」と「がけ崩れ模型実験装置」やRR併用工法研究会による「斜面安定工法実験装置」の実演も行われ、治山ダム等の防災施設の役割と効果を学ぶ場を提供することができました。



保水力実験

4 おわりに

今回は、3年ぶりに実験装置の対面実演を行い説明をすることができたため、インターネット版六甲山の災害展の閲覧者数を加えると、対前年度約5割増の1,700名を超える方々に来場・閲覧していただきました。



地すべりの要因と実験対策工の実験

また、来場者へのアンケートでは、「ハザードマップや避難経路を再確認したい」や「いつ起こるか分からない災害のため防災グッズを整えたい」等の感想をいただき、防災意識の向上に寄与することができたと感じています。



降雨体験装置の実演

近年は、台風や豪雨による大規模な土砂災害が毎年のように発生しているため、日頃から自然災害に備えておくことが大変重要になっています。

今後も、県民の皆さまの防災・減災の意識向上と災害時に安全な避難行動ができるよう普及啓発に一層取り組みます。



常設版 六甲山の災害展 (神戸県民センター 六甲治山事務所ホームページ)